書家 加藤裕さん作『久遠』

真宗高田派
賢隆山久遠寺
〒460-0007
名古屋市中区新栄1−4−6
Tel &fax 052-241-5231
www.kuonji.net
Kenryuzan-kuonji@nifty.com

久遠寺住職の

いま不思議ないのちを生きている！

新しき年を迎え、今現在の居り場所を確認しながら与えられている不思議なるいのちに感謝し、一歩一歩進みたいと思います。

今年の干支は「卯」年です。辞書によりますと、月では二月、時刻では午前六時つまり「明け方」、方角では東を指し、卯月花とは石楠花のことを指すそうです。一方、「兎」は象形文字で、兎がうずくまって尾を後ろに出している姿です。兎に「宀」を付けると「寃」となり、昨年も問題となった無実の罪に使われる語で、兎が「宀」の下にあり、走るを得ず、柱屈する意味であります。自分の身を卑下して来りのぞむ。弁解し得ぬ無実の罪の意だそうです。このように一つの文字で変化し意味を持つことは、永い歴史での言葉の奥深さを感じます。

昨今、無駄を徹底的に省く行為、必要でないものは捨てていくという絶縁社会、無縁社会と言われる言葉を頻繁に耳にします。他の人々に迷惑をかけないで生きていこうとは思ってはいるが、迷惑をかけずに生きれない自分であり、その迷惑をかけていることに「すみません、ありがとう」と言えることが必要ではないでしょうか。迷惑をかけないで生きようとすれば、自己中心でしか考えられないですし、それは孤立することにもなり、ますます虚しさが増すばかりであると思います。人間は良きにも悪しきにも人と人との出逢いによってつながり関わっていくことで、父祖の生死の事実を受け止めることができるのでしょう。それがまた縁となって自身の行く先を示して下さっているのでありましょう。縁に遇えば、どのようにでも変わっていく自分ではあるが、過去に救われた人々の言葉によって転ぜられる自分に気付かされます。孤立や孤独でなく、縁によって現実から逃れられない自分があり、その現実は不安・不自由ではあるが、その起こり得る事実が自分を明らかにする覚者の願いではないでしょうか。

石川県の寺の坊守・藤場美津路という方がおられます。自分の思いと仏の教えとの壮絶な闘いの中から仏様の教えを頂いて、自己に囚われ縛られていた自分を発見されました。今では自分の居り場所が見つかり、落ち着いた生活をされていますが、当時の苦しんでおられた時のお言葉を紹介致します。

「我執のつぶやき」

親ほどうっとおしい者はない
兄弟ほど面倒な者はない
子供ほど厄介な者はない
夫ほど平凡で薄情な者はない
姑ほど邪魔な者はない
だから離れ軽蔑し嫌い反発した
先生と宗教家ほど偽善的な者はない
だから信じることがなかった
大嫌いな者は自分自身 愛そうとして愛しきれず
信じようとして信じきれず
ただ一人孤独の淵をのたうち回る
こんな人間は生きている価値がないと思った
それは真っ暗い地獄をはいずり回っている気持ち
どうにでもなれ　なるようになれ
斜に構えたやけくそ人生
死ぬに死なれず　生きるに生きられず

捨て鉢の人生、そこに聞こえた言葉。汝我がはからいを超えたいのちを今そこで生きよ。生かしめられている我、人間は生きているだけで尊いのだ」と。以後、多くの煩悩と仲良く付き合っていけそうな道が見つかったそうです。それは遠い遠い道のような気もしますが、有難う御座いました、南无阿弥陀仏」と、一つの光によって本当の自分の姿に遇わされたお言葉でありましょう。

合掌

久遠寺住職　高山元智

法語を心わう！

表紙

遠く宿縁を慶べ

親鸞聖人

縁と言う言葉には、有縁無縁順縁逆縁業縁強縁結縁などいろいろあります。ここで言われる宿縁は、宿世＝前世よりの因縁の如くお釈迦さま初め、インド・中国・日本の高僧の方々が真実の言葉をもって、私達に示し教えてくださったことを喜ぶ身になれた縁のことでありましょう。

弥陀の本願まことにおわしまさば釈尊の説教虚言なるべからず。仏説まことにおわしまさば善導の御釈虚言したまうべからず。善導の御釈まことならば法然のおおせそらごとならんや。法然のおおせまことならば親鸞がもうすむね、またもってむなしかるべからずそうろか。」（歎異抄）自己中心で自分さえ良ければと生きてきた以前よりお前の分限はこうなんだと願われていたことに気づかされ、それをただ聞くのみであるんだ、という本当の自分に遇わせてもらう縁でもありましょう。

一月

聞思して遲慮することなかれ

聞というは衆生、仏の生起本末を聞きて疑心あることなし。」私達人間にどのようにして仏の願いが建てられ、その建てられた願いが人間にどのように関わってくるのか、それが明らかになってくることの意であります。聞は「聞く、聞こえる」と読み、聞くは「私が聞く、私流に聞く」、聞こえるとは、聴く者と聞かせる者との壁を越えて自然に聞こえてくることです。聞より起こる信心、思より起こる信心というは聞きて疑わずと言われ、恩は信なり、ともに自力のはからいなのです。いのちばかりもよりつかさどるなり、と教えられ、仏様は本当におられるのか、念仏称えるだけで救われるのか、と自分の経験で判断しております。けれども、人間にはその時だけの真であって、いつでどこでも通じない真なのです。私達は救われた方々の言葉の真実（いつでもどこでも誰にでも通じる）をただ聞くのみでありましょう。

二月

遇がたくして遇うことを得たり

仏法を疑うということは、自分の考えがあることであり、実は自分の考えもプラスマイナスではないですし、本当のことを願っている訳です。

老いも病もなかなかその事実を受けることは難しいです。その事実から逃げようとして悩み苦しみます。例えば病気で手術台に登った時は、お医者さん任せで結末はどうなるかわかりません。お医者さんを疑う余地はない訳です。そこでは自分の思い通りにいかず生きていることはあらゆる方のお蔭で、助けて頂いて今があることに気付かされます。自分勝手で生き自分中心で生きてきた人生には本当のことが見えなかったはずです。濁った心で見ていましたが、苦悩する中では自分の本性に遇い難いものですし、また信じ難いものです。けれども、仏様の願い続けられたことに今遇わせて頂くことこそ少しずつ喜びの日々になるのだと願っております。

三月

帰命は本願招喚の勅命なり

「帰命無量寿如来」と正信偈一句目にあり、帰命＝南無、無量寿如来＝南无阿弥陀仏、つまり阿弥陀仏に南無せよとの命令であり、仏様の願いが私たちの眠っている心を招き、喚びさまま働きであります。呼ぶはこちらからオーイと呼ぶ。しかし、呼ぶ声が覚ますのです。例えば、手術まで麻酔をかけられてずっと眠っている自分であったが、家族、先生の呼びかけにもまだ目が覚めないで居たけれど、目が覚めてから聞けば、ずっと呼び続けれ荒れている自分であった。眠っている自分は気付かないけれど、いつも仏様から目を覚まさせよとおる自分。幼少の頃、苦しい時、悲しい時、嬉しい時、にお母さんと叫ぶのは母親が呼ばせるだけの大きな力と偉大さ、愛、を持っていて私を呼びなさい、と言う。私たちが「南无阿弥陀仏」と称えるのもいのちの歴史の中で、救ってやるぞとの名告があるからでしょう。

仏教クイズ

あなたはいくつ答えられる？！

①法事の際、要らないものは？
1, 念珠　2, 雑誌　3, 門徒式章

②お供えするのに不都合なものはどれ？
1, 造花　2、鮮魚　3, 餅　4, 落雁

③法事に相応しい服装は？
1, 作務衣　2, 遊び用服　3, 正装

④法事後の食事に適しているのは？（絶対ではありません）
1, フランス料理　2, 居酒屋
3, コンビニ弁当　4, 精進料理

答えは、このページの左下！！

久遠寺の掲示板

平成22年9月掲示

自分さえよければいい　この悲しさ」　浅田正作

一般的に自分さえ良ければ」と思っているのではないだろうか。人間は自分を守ろうとして、他を批難し、自分が正しいと主張するばかりで本当の心を顧みない。この事実が自己の深い悲しみとなった時に、善き人々の言葉が思いの中で生き、都合で生きている自己に清浄で純粋なる道を歩ませてくださるのだと思います。

自ずから羞じ、天に羞じる」＝慚愧の心が大切なのです。

合掌

長編連載『心の響き』
久遠寺檀家の一員さん

昭和二十年（一九四五）以前、戦中戦前の我が大日本帝国は天皇陛下を現つ神と奉り神格化しておりました。学校には校庭の一角に奉安殿が建てられており、その中には勅語類が多数奉納されておりました。正月は勿論のこと、二月には「雲に従耳える高千穂の・・・」と、国の初めの紀元節四月には天皇生誕の天長節、又十二月には明治天皇崩御の明治節と夫々の典礼があり奉安殿より勅語を教頭先生が御し頂き校長先生が檀上で全校生徒を前に奉読されたものです。全員頭を垂れて時には長時間になる時もあり、やっと御名御璽で終わり顔を上げた時は鼻水の啜り上げる音があちこちから一斉に聞こえたものでした。昔の子供は時に冬など袖口で鼻水を擦るのでカサカサとこわばっていたのをよく見かけました。最近の子供は、人数も確かに少なくなっておりますが、鼻水を垂らしている者をみかけなくなりました。勤めが厳しく、育児も思うように手を掛けられない若いお母さんが多くなったように思はれます。そんな内でも時代の変化した生活環境か、食育の為せる業か計り知れません。現実が証明です。

・・次号へ続く・・

平成22年度報恩講をお勤めしました！

報恩講勤修風景

昨年10月に当山報恩講を勤修致しました。一年に一度の大法要にご来寺下さり有難う御座いました。報恩茶会も二年目になり、二時間程の間ですが皆様にご満足頂ける時を過ごすことができました。今後も親鸞聖人のみ教え『南无阿弥陀佛』に感謝し今ある我が身に気付かせて頂きましょう。来年もご来寺お待ちしております。

合掌

皆様へ初お披露目です！！

①-2　②-1,2　③-3　④-4

今年は「卯」！沢山有難う御座います！寺で大切にお飾りします。是非ご覧くださいね☆

前田嘉一さん

吉井直子さん

加藤裕さん

秋田晃男さん

山田鉱士さん

大橋和子さん

矢島昭夫さん

編集後記

隣の仏様はどういうお名前か皆様ご存じですか？そう、もちろん『阿弥陀如来』様ですね。

真宗寺院の阿弥陀様は座っているのではなく、立っておられます。また高田派の阿弥陀様は、左足が半歩前に出ているのが特徴であります。

後光のことを光背といい、法蔵菩薩の時に建てられた本願＝四十八願から四十八本あります。そして、蓮の花の上にお立ちになっておられます。蓮の華は、泥池の中からきれいに咲きますね。これは、私たちの世界は煩悩塗れであることが例えられ、煩悩の世界に一輪の仏の御教えはまさに救いの象徴であります。

そして、右手の人差し指と親指をくっつけて輪を作り上に上げ、左手も人差し指と親指をくっつけて輪を作り下に下げ、「上品下生印」＝『来迎印』という印相をし、『すべてのものを救う』とお約束されているのです。

阿弥陀様と一言いっても、いろいろな箇所に尊い願いが込められているのですね。

南无阿弥陀仏

久遠寺衆徒　髙山信雄

◎久遠寺ＨＰ＆blogも随時更新中です。是非お時間のある時にご覧ください。
◎寺報記事も随時募集中です。ご協力お願い致します。
◎お経本は床に置かないように気を付けましょう。

今後の予定

2月14～16日 10時～、13時～、15時～	2月21日(月) 午後1:30～	3月16日(水) 午後1:30～	3月21日(月) 午前8:30～12時
名古屋別院 **報恩講** 16日13時半～ 御門主様御親教	真宗入門法話会⑨ **和讃のこころ** ～大安慰に帰命せよ～	真宗入門法話会⑩ **和讃のこころ** ～副題未定～	春彼岸佛会（彼岸） **墓参り**
高田派名古屋別院	久遠寺本堂	久遠寺本堂	平和公園墓地

是非皆様お揃いでご参詣ください。